AI生成研究の「生データ」公開モデルと学術ガバナンス

OpenAIのAI成果新公開モデルと学術共同体のガバナンス課題

「研究の生データ」モデルと4原則



AI出力
(生データ)



人間共同体による
検証・意味づけ

**AI出力は
完成論文ではなく
「研究の生データ」**

健全な協働のための「ガバナンス四原則」



透明性



クレジット非要求



人間の貢献認知



独立性
(無報酬・NDAなし)

分野に応じた3つの公開実験



数学：即時全面公開



計算機科学：専門家伴走



物理：検証完了まで公開保留

学術界の懸念と今後の課題



「特定専門家の優先選定」によるアクセス格差

企業による協力者の早期選定が、情報の非対称性や研究議題の偏りを生むと批判。

検証能力を上回る「大量生成」による査読負債

短期間で数百件の原稿が生成され、人間側の査読・再検証リソースが逼迫。



数百件
の原稿

査読リソース



確定した知識
(人間の解釈段階)

「AIの発見」と「確定した知識」の分離管理

機械検証（Lean）のカバー率や人間の解釈段階を明確に区別して表示すべき。

Gemini Notebook